

会議記録＜要約＞

会議年月日	令和元年 7 月 3 日（水） 18：00～19：05
件名等	伊方町観光交流拠点施設整備工事説明会
場所	伊方町役場三崎支所 2階 多目的会議室
出席者	説明者：町長、副町長、産業課観光商工室 4 名、 朝日共販株式会社 2 名、堀田建設株式会社 2 名、 京・山口設計共同企業体 1 名 参加者：32 名

(質疑応答)

住民A：最終的な予算の内訳は？**町**：建築工事は契約済みで、契約金額 6 億 5,780 万円、省エネ・創エネ設備工事 3 億 4,754 万 5 千円、外構工事 1 億 9,052 万円、総事業費 11 億 9,586 万 5 千円。備品整備費がこれには含まれていないので、今後指定管理者と協議を行う。**住民A**：太陽光・地中熱に関しては、事業費の 10 分の 10 の国の補助金を利用すると聞いていたが？**町**：省エネ・創エネ設備工事は、国の補助金 100%の充当で申請し、国から内定をいただいている。**住民B**：地域住民主導型の施設にして欲しい。**指定管理者**：町民の方々のご理解がなくては、成功はないと思う。これから地域の従業員の募集をしたり、産直コーナーでの物販の納入のお願いをしたりと、地域とのコミュニケーションをしっかりととって、この運営をぜひ成功させたい。指定管理者が権利を握って他の者を入れないというようなことは考えていない。**住民C**：費用対効果、投資効果はどの程度のものを積算しているのか？**町**：経済波及効果として、年間 3 億 2,000 万円という試算が出ている。**住民C**：年間の来訪者はどのくらい増大するのか？**町**：現状が 15 万人強で、目標はおよそ 2 倍の 30 万人としている。内訳は、フェリー利用客 10 万人、町内 5 万人、県内外 15 万人。**住民C**：施設だけで何十万人の集客力がアップするという施設が欲しかったが、全然入っていない。**町**：目を見張るようなハードはないかもしれないが、町としてはソフト面で地域の皆様と指定管理者と協力をし、観光誘客の施策であったり、イベント等で集客していきたい。

住民A：資料のスケジュールに協議会の立ち上げとあるが、これについての町の考えは？

町：この協議会は、施設をより効率的、魅力的なものにするために、町や指定管理者、地域の皆様、関連事業者、納入業者等で、イベント等の誘客の施策を考えぬく場と考えている。

住民A：伊方町の観光交流施設を整備するにあたって、町全体にどのような観光客の周遊する仕組み、滞在する仕組みのビジョンを描いているのか？

町：観光の材料、コンテンツはあるがそれが有機的に結びついていない、それをどうこれから結び付けて滞在型の地域に作り上げていくかというのは、非常に大きな課題であると認識している。今回のはなはなを軸に、本当の意味でのこの佐田岬半島の観光の振興策というものを作り上げていきたい。それを役場だけで考えるのではなく、こういった協議の場で、皆さん方の知恵を貸していただきたい。今有機的に結びつける策を明確にお答えすることはできないが、少なくともはなはなを核にした佐田岬半島の観光の振興策を考えていきたい。

住民A：この協議会は、はなはなの運営に関してのみか？

町：はい。

住民D：道の駅を目指すという考えはあるか？

町：来年のオープンまでに、道の駅、みなとオアシス、両方に登録できるよう申請する予定。

住民E：道路の濃霧対策をしないと、お客さんが三崎まで来ないのでは？

町：濃霧対策は国、県に要望して、道路上に反射鏡をつけてもらっている。この霧の深さは難しい問題ではあるが、できる対策はこれからも要望していきたい。

住民D：八幡浜の船と違って短い時間でどんどん行き来する九四フェリーの利用客をどう取り込んでいくのか？

指定管理者：一便でも送らせてくれる、ということを考えて、特に食というものを追求したい。佐田岬半島の四季折々の水産物、農産物のメニュー開発をしていきたい。

住民F：灯台周辺がものすごく立派になったが、外部の人からそこまでの道路を何とかしないといけないと言われた。

町：その道路は県管理の県道であるが、メートル当たりの整備費が高く、道路の幅が思うように進まないということも事実である。はなはなができたら、例えば灯台に向けての遊覧船等ができないか考えていきたい。

住民B：施設の運営時間は決まっているか？

町：営業時間は、まだ決めていない。

指定管理者：まだはっきりした時間は決まっていないが、夏は少し時間を延ばす等、やっていきたい。

(その他意見)

- ・零細化された地域の商業者の方々のことを考えた施設の運営というのを考えてほしい。
- ・広場のスペースがほとんどなくなるが、来年からはなはな祭りをどう運営するか、どう取り組むか、対応策を考えてもらいたい。
- ・国道のメロディーロードで、「海」の曲が流れるところがあるが、音が聞こえて横を見ても木で海が見えず非常に残念だ。国道沿いの桜の木をはなはなに移植させると、道の景観も整うと思う。
- ・メロディーラインは、町外の人にとっては信号がなく、車で走るにはとても気持ちがいい場所なので、フォトスポットがもっとあれば、はなはなのストーリー性ができることで、半島に行きたいという方がもっと増えると思う。
- ・非常に立派な観光資源が半島にはあるので、旅行業者にもう少し売り込みをして、外から地元にお金を落とさせるようにしないといけないと思う。
- ・盆正月はもちろん、連休、土日の朝一番のフェリー利用者は、朝 5 時から国道に列ができるほどいるが、お客さんから何もありませんかという声があったので、今度の施設で打開できるといいと思う。
- ・インバウンド客が増えてきているが、非常にマナーが悪いと聞くので、町で対策を講じて、気持ちよく来てもらえる施設にしてほしい。